

学生団体が「市民研究員」に



半田市在住・在学の学生によるまちづくり団体「はんだU22研究所」が日本福祉大の市民研究員に選ばれた。メンバーは「若者ならではの視点を、まちの活性化に生かしたい」と張り切っている。

(三宅千智)

U22は昨年四月に発（S）によるまちの情報足し市内外の十五人は、発信の有用性など研究どが所属。同市の再開 成果を発表した。発ビル「クラシティ」 日本福祉大の市民研を拠点に有志が月に数 究員制度は、子育てや回集まり、まちづくり 福祉といった各地域の案などを話し合う。九 課題を解決するための月には市職員や住民ら 市民活動に同大が施設八十人以上を前に、会 提供や助成などで支援員制交流サイト（SN）する仕組みで、二〇一

日福大 地域活性化活動を支援へ

五年にスタート。対象地域は半田、知多、東海市と美浜町。

U22の研究テーマは「半田市の中心市街地における世代間交流」。学生と、二十〜三十代の社会人との交流の場を設け、駅前商店街などに活気を呼びたい考えた。文献調査や参考事例の視察を経て秋以降にイベントなどを実施する予定。

U22メンバーで、愛知教育大四年坂元美香さん（三）は「出会いが広がれば人生が豊かになる。市街地がそうしたきっかけの場所になれば」、名古屋市立大四年日数谷菜那さん（三）は「駅前商店街などの空き店舗が多く、さみしい状況が気になっていた。育ったまちがにぎわう様子を見たい」と力を込める。

活動二年目を迎えたU22は二期メンバーも募っている。画課0569（84）0603

委嘱状を手にする坂元さん（前列右から2人目）らU22のメンバー＝半田市のクラシティで